

## 疾患名

全身性エリテマトーデス

## 病気について

全身性エリテマトーデス（systemic lupus erythematosus : SLE）

SLEは原因不明の全身性自己免疫疾患で、自己抗体や免疫複合体を介する組織障害を認める慢性炎症性疾患です。症状は多彩で発熱、倦怠感、体重減少などの全身症状のほか皮疹、関節炎、漿膜炎、血球減少、ループス腎炎による蛋白尿、血尿、腎機能低下、精神神経ループスと呼ばれる精神・神経症状、消化器症状などを呈します。治療・診断技術の進歩によりSLEの予後は10年生存率95%超と以前に比べて著しく改善しましたが、治療抵抗性の病態も存在します。

## 治療について

病態によりますが、SLEの治療には副腎皮質ステロイド薬のほか免疫抑制薬が用いられます。近年、抗マラリア薬、生物学的製剤の有効性も報告され、使用されています。

ステロイド治療抵抗性の場合、または急速に進行する治療抵抗性の腎炎あるいは精神神経性ループスである場合、アフェレシスの併用を考慮します。

## アフェレシス療法の適用とその実施

保険適用：あり

アフェレシス療法の種類：血漿交換、二重濾過血漿分離交換、免疫吸着法

回数：月4回を限度（病態の改善を認めるまで施行可能）として行います。